

移住と定着を超えて、共生を考える

—コリョ・サラム（高麗人）のディアスポラ・マイノリティの経験から—

Considering Symbiosis Beyond Migration and Settlement:

The Experience of the Koryo Saram Diaspora (Korean Diaspora)

李 眞恵（日本学術振興会外国人特別研究員（立命館大学））

Lee Jinhye (JSPS Foreign Postdoctoral Fellow (Ritsumeikan University))

キーワード：コリョ・サラム、カザフスタン、ディアスポラ、マイノリティ

Keywords: Koryo Saram, Kazakhstan, Diaspora, Minority

「コリョ・サラム Корея сарам」とは、旧ソ連地域に住んでいるコリアン・ディアスポラの自称である（柳田、2005）。1863年に朝鮮半島からロシア極東に移住し、1937年にスターリンにより強制移住させられ中央アジアに定着し、ソ連解体後独立した旧ソ連諸国の国籍を持っているコリアン・ディアスポラ全般を指す（李、2017）。旧ソ連諸国において一口にコリョ・サラムと言っても、ソ連解体後、諸国の独立期には、どの国のコリアン・ディアスポラであるかによって歴史的祖国との関係が異なる上、国際情勢の影響などの複雑な要因もあって、各国の国民統合策への対応もそれぞれに異なる様相と変容過程を示してきた（李、2022; Lee, 2021）。

本発表は、コリョ・サラム社会の変容のダイナミズムならびにカザフスタン独立後の国民統合の中での彼らの社会変容を明らかにすることを目的とする。まず、コリョ・サラムの主要な言論の場となってきた新聞に着目し、彼らの主張を通時的に整理し、次に、フィールドワークによって現代コリョ・サラムの現状と多様な声を把握することを試みる。具体的に、旧ソ連地域研究およびコリョ・サラム研究の観点から、中央アジアの一国であるカザフスタンにおける少数民族としてのコリョ・サラムを対象に、ペレストロイカ期の著しい民族再生運動の高揚、ソ連解体による自治構想の挫折と民族再生運動の失速、独立後のカザフスタンの国民統合への対応の必要性といった激変を経験する中で、彼らの社会統合と社会変容のダイナミズムはいかなるものであったか、現代カザフスタンにおけるコリョ・サラムの生存戦略とはいかなるものであるかを明らかにすることを目的とする。本発表は以下のように大きく二つに分けて行う。

➤ コリョ・サラムという名称、サブアイデンティティ、カザフスタン・コリョ・サラムの位置づけ

コリョ・サラムの「コリョ」とは漢字で表記すると、「高麗」であり、「サラム」は日本語に訳すなら、「人」という意味である。彼らを指す名称は研究においてもいくつか混在している（李、2022）。このように研究上に混在しているコリョ・サラムの呼称にめぐむ問題について議論を展開する。また、ソ連解体から30年を経た現代コリョ・サラム社会内部には社会的・経済的背景が異なる人々が混在していることに着目し、彼らの移住と定着と、その経緯について論じながら、コリョ・サラム内に存在するサブアイデンティティの問題について議論を行う。さらに、現代のコリョ・サラム社会はいずれかの旧ソ連諸国に属し、そのそれぞれの基幹民族中心の国民統合に対応しつつ、また変容している。したがって、ソ連解体とともに独立を宣言したカザフスタンの国民統合や同国の少数民族社会の変容を把握するために、先ずカザフスタンのコリョ・サラムの位置づけと特徴について論じる。

➤ カザフスタン・コリョ・サラム社会の変容

カザフスタンにおけるコリョ・サラム社会変容の全体像を把握するため、まず、独立直前におけるコリョ・サラム社会の変容について検討する。ペレストロイカ期（1986-1990）に記された、『レーニン・キチ』紙の民族再生に関連する記事の分析を行う。民族語、民族文化、民族の記憶及び歴史の再生ということで分類がなされた記事

によって、彼らの社会はどのように変容し、その中でもどのようなアイデンティティが構築されたのか、について論じる(李、2017)。次に、独立以降におけるカザフスタン・コリョ・サラム社会の変容について検討するため、ペレストロイカ期以降現在に至るまで(1991-2017)の『コリョ・イルボ』紙を一次資料として、カザフスタン国民統合、つまり、カザフ人中心主義と多民族共存のための政府の政策に対する彼らの対応に焦点を置いて分析を行い、ペレストロイカ期以降、彼ら社会のアイデンティティはどのように変容しているかなど、社会的変容の実態について論じる(Lee, 2019)。さらに、紙面の分析にとどまらず視野をより広げ、2015年から2018年まで行われてきた、カザフスタンにおけるコリョ・サラムの主要な団体の代表者と関係者などへのインタビュー調査からカザフスタンの現代的課題に対応する、カザフスタンにおけるマイノリティとしてのコリョ・サラムの生存戦略について論じる(Lee, 2021a)。最後に、本発表の主論点をまとめ、結論を論じる。

参考文献

- 柳田賢二. 2005. 「タシケント郊外旧コルホーズ「ホリトオッシュェル」在住高麗人2世の朝鮮語・ロシア語混用コードについて」『東北アジア研究』9: 111-142.
- 李眞恵. 2017. 「ペレストロイカ期におけるコリョ・サラムのアイデンティティ形成—1986年-1991年の『レーニン・キチ』の分析から」『イスラーム世界研究』10: 177-191.
- 李眞恵. 2022. 『二つのアジアを生きる：現代カザフスタンにおける民族問題と高麗人(コリョ・サラム)ディアスポラの文化変容』ナカニシヤ出版.
- Lee Jinhye. 2019. “Identity Formation of the Korean Diaspora (Koryo saram) in Contemporary Kazakhstan: An Analysis Based upon Articles of Koryo Ilbo”, *Korean Diaspora across the World: Homeland in History, Memory, Imagination, Media and Reality*, Eunjeong Han, Minhwa Han, and Jonghwa Lee, Lexington Books, pp. 131-145, Lanham, ML, USA.
- Lee Jinhye. 2021. The Contemporary Status of the Ethnic Group in Kazakhstan and the Koryoin’s Nation, *Asia Review* 11(1): 261-289.
- Lee Jinhye, ed. 2021(2021a). *Asian Diaspora in the Era of Globalization: Lived Experiences among Different Cultures (AJI Books)*. Osaka: Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University. viii+82 pp. ISBN 978-4-9911356-6-8 Online 978-4-9911356-7-5 Print.